

# 学びの深まりを求めて

## —09総選挙模擬投票に取り組んで—

京都教育大学附属高等学校教諭

高田 敏尚

### 1 模擬投票に取り組む

『政治・経済』2年選択者25名(男子12名, 女子13名)の講座において, 授業の一環として, 09年8月の総選挙の前に(1学期最終日), 模擬投票に挑んだ。2009年7月21日に衆議院が解散され, 第45回総選挙が8月18日に公示, 8月30日に執行という政治日程が明らかになっており, 生徒の選択と結果が非常にわかりやすく現れる絶好の機会と考えたからだ。

結果は下の表1のとおりだった。比例代表区を想定し, 近畿ブロックの得票率と対比させてある。

【表1】

政党名	クラスでの得票数	クラスでの得票率(%)	比例近畿得票率(%)	参考別講座(34人)
自民党	6	24	23.32	6(18%)
公明党	3	12	13.05	1(3%)
民主党	12	48	42.43	14(41%)
社民党	0	0	3.65	1(3%)
共産党	2	8	9.52	3(9%)
国民新党	1	4	1.51	5(15%)
新党日本	1	4	1.17	3(9%)

このような模擬投票には, 先行実践も多く, 後藤雅彦<sup>①</sup>は模擬投票を授業で取り入れる理由として以下の3点をあげている(一部筆者改題)。

- ①「政治参加」や「選挙」を学ぶにもかかわらず制度やしくみの解説型授業だけでは, 将来の主権者としての基礎的教養を培うどころか, 公民が生徒から敬遠される要因となる。
- ②投票率低下にみられるように, 若者の政治離れが進むなかで, 政治に関心を持たせ, 政治意識を高める政治教育に取り組む必要がある。
- ③上記の状況を少しでも改善するため, 国政選挙を

貴重な学習機会ととらえ, 政治への関心を高め, 政治に積極的に参加する大切さを認識させる。

なるほど, 本校においても毎年実施している社会科の基礎学力調査で, 最初に問う「社会科各分野の好き, 嫌い」調査でも, 歴史分野が好きと答える生徒が50%を超えるのに対して, 地理分野, 公民分野は「好き, どちらかといえば好き」という生徒が25%弱とふるわない。公民がこのような敬遠されるのが中学校の3年生で受験にあわせて, 知識中心の授業が行われていることも一因かもしれない。

後でふれるが, この表をみるとすぐにわかるのが生徒の投票結果と, 実際の結果があまりに似ているということだ。私自身は, 生徒に世間の結果と自分たちの結果のくい違いをもとにして授業を進めようとしたのだが, この点では誤算であった。しかし, 先にふれた後藤実践でも比例区で「A~G党のうちで2党を除いて, 模擬投票と実際の結果が同じとなった」のである。生徒の現実感覚に敬服する次第である。

### 2 模擬投票のまえに〜マニフェスト・パズル〜

最近では各党が政策目標を有権者に具体的に示すマニフェストを公表することが一般化してきた。その一覧表が資料集<sup>③</sup>にも収録されており, この表をばらばらに切ってカードにして, 縦軸の政党名, 横軸の政策(郵政改革, 財政再建, 憲法など)の条件を台紙にはりつけ, 4人ずつのグループに分けた生徒たちに各党のマニフェストを完成させてみた。パズルのようなゲーム感覚でカードをあちこち移動させている。郵政改革では, 「4つの事業会社に分割民営化」「郵便の全国的サービスは維持」「民営化反対」

などの温度差に注目し、憲法では「憲法改正国民投票法」や「加憲」「憲法を守りぬき」などのキーワードをもとにパズルを完成させていく。実際の授業では、国民新党と新党日本は私のほうから提示して主要5政党に関して取り組ませた。そして、このマニフェストをみさせたいので、「投票してください。名前は書く必要はないが、なぜあなたがこの政党に投票したのか理由を書いてください」という指示をした。もちろん、開票は2学期になってから、8月30日の投票日以降であり、その時には結果はわかっている。

### 3 生徒の選択は

民主党を選んだ12人の生徒の理由をみると「国債発行を減らす」「自衛隊のイラク撤退」「年金と財政再建が重要だと思う」などマニフェストをふまえた理由が多い。「自衛隊のイラク撤退」をあげた生徒が3名、財政再建を理由とした生徒が3名、その両方をあげた生徒が2名いた。もちろん、「世論の流れで」とか「なんか良さそうだから」という理由をあげている生徒もいた。自民主党を選んだ6人は、「外交がよいと思ったから」という生徒が2名、「公務員の人件費大幅削減に賛成だから」また「今の現体制を変えたら大変」という理由もあった。マニフェストをみて判断したり、現体制維持などなるほど保守ならではの理由であった。公明党は、加憲に注目し「環境権とかプライバシー権とか国民よりの政治をしてくれそうだから」というマニフェストで判断した生徒が2名いた。共産党を選んだ生徒は「自分たちの暮らしに一番身近で生活がよくなりそうだから」とか、同様の趣旨を「一番自分たちに被害がでないから」という表現であらわしている。生活弱者寄りの立場が支持を得ている。国民新党は、「景気回復を重視しているから」、新党日本は「あまり具体的ではないが、理想的だと思ったから」という理由だった。

開票後に行ったワークシートに、社民党を忘れて

いたと書いている生徒が複数いた。投票数がゼロというのを気にしたのだろうか。このワークシートでは「君たちの投票結果と、世の中の投票結果のくいちがいは、なぜ生じたのか」という問いをたてた。しかし、実際は、くいちがいはなく、なぜ一致したのかを問うはめになった。生徒の言葉によると「みんなの考えが社会とよく似ていた。ほぼ世間と似ていた」と満足気である。同様のことは「このクラスには一般的にいろんな考えの人がいるから」と答えたりして、その一般的というのが「皆が全体的に自民にうんざりしていたからかも」とこの投票結果を分析している。「偶然では」という冷めた見方から、「マニフェストをみて政党を選んだから」「クラスのみんが社会の人たちと同じように、マニフェストについてしっかり精査し、自分の意見をしっかり考えたから」と模範的に答えてくれた生徒や、「テレビなどで言っていたことを参考にして世の中の人と同じような状況だったから」とか「ニュースや新聞などからなんとなく投票前の感じがわかっていたので、そのため同じになった」と自分たちもメディアの影響を受けていたという指摘もあった。なんとなくというのが、空気を読むまたは迎合主義的に聞こえるのが気がかりだが。

### 4 生徒の意識を高めたか

私の『政治・経済』の授業では、この取り組みの他に「ニュース時事検定」に取り組んだり、「100円ショップを考える」と称して、グループで模造紙に100円ショップのチャート図を書かせた。この模造紙の中心が「100円ショップ」、そこから派生するさまざまな概念や事項、たとえば「安い」とか「中国製」「便利」「粗悪」などの用語がつながっていく。この模造紙を完成させたいので、それぞれに問いをたてさせる。その問いは「ほんとうに安いのか」とか「中国製ばっかりか」とか「100円ショップは24時間営業なのか」、こちらの意図を見透かしたような「ワーキングプアの現状」さらには逆説的に「なぜハー

ゲンダツツは高いのか」という問いまで登場し、コンピュータでその問いの答えを探索する。その後、『徹底解剖100円ショップ—日常化するグローバリゼーション—』（アジア太平洋資料センター）というDVDを視聴する。このDVDは、わずか20分の内容だが、中国での生産の模様、日本製の100円均一商品の現実、100円ショップで働く人々の現状などが映像となっている。このような教材を使って、「安い、便利、なんでもある」というイメージの転換をはかり、グローバル化の世界(発展途上国)の現実、安いが国内での低賃金につながっていくというような構造的な問題にきりこんでいき、先ほどのチャート図に修正を加え、生徒の意識の変容を視覚的に確認しようとする試みだ。

このような試みを生徒に「この取り組みで『政治・経済』に対する関心が高まったか」という問いにして、はい、どちらかといえばはい、どちらかといえはいいえ、いいえという4択で答えさせた。それぞれ順に4点、3点、2点、1点と点数化すると、模擬投票3.28、ニュース時事検定3.52、100円ショップ2.76(まだ実践中途だったこともあるが)という数値を得た。

模擬投票では、「開票が楽しみだった」とか「マニフェストを読んで投票するのは、将来選挙権をもらったときに責任をもって投票するためにも必要と思う」とか、漠然と「選挙に対する意識が高まった」という感想をのべ、「実際の投票結果とこんなに近いのか」と改めて実感していた。さて、この3.28という数値だが、ひととおりの知識による選挙理解とはまた違う新鮮さが生徒の意欲を引き出しているよ

うに思える。自分たちも参加しているという臨場感を追体験できた、それが教科に対する意欲や関心につながっていると思う。

## 5 政治への熱い期待、未来の主権者として

私は、『政治・経済』の時間に生徒たちに「なぜ」を問う問いを作らせて約15分程度の発表をさせている。その一部を紹介すると下の表2のようになる。

「この15分の発表はきつかった」という感想が多いものの、「自分で詳しく調べることがその後の興味につながった。また、他の人の発表を聞いて新しい知識を多く得られた」という意見もあった。このような日常の積み重ねのうえの実践なのだが、模擬投票後のワークシートで選挙結果の評価を尋ねたところ、「どの党が政権をにぎってもあまり状況は変わらないだろうから、民主がどこまでやれるかみてみたい」という意見があるものの、「停滞した政治に刺激を与える機会だ」「与党が少しでも変な政治をしていると、選挙の結果がこうなると各党に知らせられた」など概ね今回の結果を好意的に受けとめている。

生徒の感性と社会を結ぶには何が必要か、このように社会の現実と向き合いながら授業を構成していき、生徒の学びを深める必要性を感じる。来年は参議院選挙がある。今回の実践を検証しながら、再び模擬投票を試みようと思っている。

注① 後藤雅彦『公民教育研究』vol. 8 日本公民教育学会(2000)

注② 「高校入学時の社会科の学力に関する調査研究」京都教育大学附属高校研究紀要第80号(2007)

注③ 『政治・経済』資料集 東京学習出版社

【表2】

番号	月日	名前	テーマ	質問者
1			なぜ、武力を持った自衛隊が「戦力」にならないか	
2			なぜ、憲法のもとで行使が禁止されているのに集団的自衛権という権利があるのか	
3			なぜ、日本は内閣総理大臣の直接選挙がないのか	
4			なぜ、死刑制度が存在するのか	
5			なぜ、裁判員制度の対象は重い罰だけなのだろうか	